研究課題名「大学生におけるアカデミック・エンゲイジメント・プロセスモデルの研究」に関する情報公開

1. 研究の対象

本研究の対象者は、名古屋大学（全学）に在籍する学部生・大学院生であり、本人に対して文書及び口頭で本研究についての十分な説明を行い、本人の自由意思により同意された方です。

2. 研究目的・方法・研究期間

研究目的：

アカデミック・エンゲイジメントを媒介因子とし、その先行因子とアウトカムのプロセスモデルを作成して検証することで、アカデミック・エンゲイジメントを介した推進すべきストレスコーピング戦略を明らかにすることです。

研究方法：

1. 研究デザイン
横断研究

2. 目標対象者数
374名

3. 症例数設定根拠
仮説モデルを基に自由度を決定しました。
帰無仮説のRMSEA 0.05、対立仮説のRMSEA 0.01、自由度 92で共分散構造分析を行う場合に必要なサンプルサイズはRより187と算出されました。同一のモデルで2つの集団に分類し、モデル比較を行うため、目標対象者数は374名とします。

4. 収集情報とその方法

〈主要な情報〉

- ・ 学業成績：GPA
- ・ エンゲイジメント：UWES-S-J(The Japanese version of the Utrecht Work Engagement Scale for Students)
- ・ ストレスコーピング：Brief COPE
- ・ ストレス：PSS10(Perceived Stress Scale)
- ・ パフォーマンス：プレゼンティーズム

〈そのほかの情報〉

- ・ 基本情報
学年、年齢、性別、専攻、同居人の有無、就労状況、課外活動の有無
- ・ 学業に影響を与えるもの

- ・ 学業に対する考え
- ・ キャリアに関する質問

5. 情報の収集方法

質問紙の回答については、名古屋大学大幸キャンパスの個人情報漏洩しない個室で行います。また、万が一精神的疲労やストレス等が発生した場合に対応できるよう、教員との速やかな連絡及び対面での支援が可能な状況を確保します。所要時間は約 20 分です。GPA については、対象者ご本人に学務システムで確認していただき、その結果を自身で記載していただきます。

6. 統計・分析方法

ストレスコーピングを独立変数、アカデミック・エンゲイジメントを媒介変数、学業成績・パフォーマンスをアウトカムとした一連の因果プロセスについて共分散構造分析を行い、効果的なストレスコーピング戦略を検証します。また、プロセスモデルを学年によって比較し、使用するコーピング戦略の違いを明らかにします。

7. 予想される結果

問題焦点型のストレスコーピング戦略がアカデミック・エンゲイジメントを介して有意に学業成績やパフォーマンスに影響を与えていると考えます。また、学年によって使用する戦略は異なると予想します。

研究期間：実施承認日 ～ （西暦） 2026 年 3 月 31 日

3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：学業成績、アカデミック・エンゲイジメント、ストレスコーピング、ストレス、プレゼンティーズム、年齢 等

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて対象者の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも対象者に不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

研究責任者：名古屋大学医学系研究科総合保健学専攻
予防・リハビリテーション科学
教授 内山 靖

〒461-8673 名古屋市東区大幸南 1-1-20

TEL：052-719-3155 メールアドレス：uchiyama@met.nagoya-u.ac.jp